

この二、三年来、花を主体にしたカタログをみると「綴化物」とか「実なりもの」と言つた言葉が第一頁に掲げられているのが目につく。この内容をみると、帯化した大豆、帯化のマツヨイ草、帯化の雁来紅のようなものから、玉すだれ、黒穂花穂、八房粟のような普通作物よりひねり出したもの、また赤加子、白加子、立花とうがらし、五色とうがらし、

## 観賞価値のある野菜

佐々木篤太

観賞の対象となるものは必ず花卉と限つたわけではなく、どのようなものでも材料になり得るのだからこのようなものが出たからと言つてとやかく言うこともあるまい。ところでこのようなものを引張り出さなくても吾々の日常用いる野菜の仲間には観賞の対象としても申し分ないと思われるものがある、いささか独断の嫌いはあるが、

色とうがらし、のような茄子科のもの（これらは以前から使用されている）さらにはやぐら葱と言つたものが大々的に宣伝されている。これも戦後急激に進出した前衛派の生花の材料にでもなるのであろうが、いささかゲテ物趣味のような気がする。しかし

思いつくまま述べてみる。

### アスパラガス

これはすでに知られているとおりで今更言うまでもないが、農家の自家菜園、都会の家庭菜園にぜひ作つておいたら良いと思われる。雑用は別としてグリーンのは栄養価もあり非常に美味である。一旦植込んでおけば後は殆ど手をかけなくても毎年採取できる。春食用に供した後、出てきた茎葉は生花の材料に甚だ重宝である。あえてスプレングリー等の高級品を使わなくても、十分間に合うのではないだろうか。

### サルシフィイ（ばらもんじん）

一名竊植物と呼ばれる根菜で、スープ、パンケーキ、揚物等にきざんだりすり潰したりして用いられる。時にはサラダにも用いられることがある。わが国ではあまり作られてないが西洋牛蒡として知られている。畑にそのままにしておくと思春抽薹開花する。これは菊科に属しているから花も同じ仲間の花、とくにセントウリアの一種に似た形のなかなか品のあるやや薄いラベンダー系の色を持つた花をつける。全体の草姿に難点はあるかも知れないが、切花として十分使えるのではないかと思われる。栽培は極く簡単で、一・五尺幅の畦に条播し、発芽後三〜四寸間隔に間引けばよい。肥料は坪当たり堆肥一〜一・五貫目、油粕三〇匁、硫酸安一五匁、過石二〇匁、木灰一〇〇匁を基肥に施す。野虫の発生をみるのでこれが防

除に注意するくらいであとは別に取立て

て言う程のことはない。

### スイス・チャード（不斷草）

根の太らないビートの葉用種で生葉菜として栽培される。耐暑性があるので、夏季蒔草その他の葉類がなくなつた時に用いられるが、わが国では未だ一般的でない。葉は一枚々々欠くか、一株全部抜きとつて用い、蒔草と同様に料理され、とくに太い中筋はアスパラガスと同様に用いられると言われている。所でこれには裝飾的な品種が多くあつて、とくに美しいのはルパーブチャードと言う品種でその葉柄は澄んだクリムソン色で、これが濃緑色の葉に葉脈を通つて拡がり、なかなか見事な色彩である。園の美観には勿論その他の裝飾に用いて面白いものではないだろうか。但し、栄養価から言つたら緑色品種、例えばフォードブック・ジャイアントのごとき品種の方がよいのは勿論である。栽培は簡単で五月下旬〜六月上旬晩霜の心配がなくなつたら何時でも播種できる。畦間二尺に条播し、間引きながら株間を拡げ七寸くらいにする。肥料は坪当たり堆肥三貫目、油粕五〇匁、硫酸安一〇匁を基肥とし、追肥に五匁の硫酸を水五升にかし二〜四回くらいやればよい。病虫害は、稚苗期に地ノミの類の害があり、大きくなると夜盗虫に害される。ともにD・D・Tの粉剤あるいは水和剤を撒布すればよい。また病気では褐斑病と言つて葉に褐色の斑点が点々とでき遂には葉を枯らす病気が発生し易い。これにはボルドー液あるいは銅製剤を用いる。とくに観賞用

として用いる時は銅製剤とか銅石鹼液剤を用いると葉を汚さずにすむ。

### 杏菜（ニュージランド・スビナツチ）

チャードと同じく蒔草と同様の調理に用いられ、日本式ではゴマアエ等は悪くない。しかし性質は蒔草とは全く異なる。霜には弱い耐暑性は強い。分枝性の強い多角性植物で二尺くらいの幅に密生して拡がる。このように沢山出る枝を欠いて用いるが、枝はつきつきと出る。一夏中用いることができる。この多肉性の脆い感じのする緑色の葉は水盤、コップ挿しに一寸乙なものに思われる。

杏菜は性強健で栽培は手がかからず容易で、六月上旬晩霜の心配がなくなつたら畦幅二・五尺、株間一尺に点播をする。肥料も堆肥以外は油粕坪当たり五〇匁くらい基肥に与えればよい。とくに注意を要する程の病虫害もない。なお種子は微温湯（三〇度〇くらい）に二時間くらい浸してから播くと発芽もよく揃うようになる。

### 羽衣甘藍（ケール）

甘藍の一種で全く結球せず見事にカールされた美しい緑色の葉が短い茎から密生する。鉱物質とビタミンが豊富なものとして若い葉を欠いて調理に用いられる。この甘藍とは思えない独特の草姿はハボタンと同様に用いてよく、また庭園のポーター等にも面白いものではないだろうか。あるいはまた鉢植もどんなものであろうか。品種は

ドワーフ・グリーン・スコッチ・カールドがよい。栽培は普通甘藍と全く同様に取扱つてよく、むしろ容易である。生育は早く耐暑性もあるから播種期を適当に変えてみるのもよい。

### オクラ (アメリカネリ)

一名ガムボーとも言い、南瓜、胡瓜のできるところであればどこでも栽培できる。これは花が落ちて数日くらい軟い蒴果を取つてスープに入れたり、野菜料理にしたり、これだけを煮て食べる。この花はクリーム色の感じのよい花をつけ、蒴果も濃緑色のツノの形をした特異の草姿があるので近頃流行の「実なりもの」の材料になるものと思われる。品種はクレムソン・スパインレス、レーディー・フィンガー、パーキンス・マムモス等の高く伸びるのと、ドワーフ・グリーンの小形のものがある。栽培は非常に手がかからず、良好な土地であれば肥料は殆どいらぬ。畦幅二・五尺に薄く条播をし高性種は一・五尺くらい、矮性種は一尺くらいの株間にする。

### ブロッコリ (子持花椰菜)

甘藍の一種いわば花椰菜の緑色の種類と言つたものである。緑色の蕾のかたまりがつぎからつぎへと出てくるから、それと肥大を欠いて食用にする。このブロッコリはビタミンA、アスコルビック酸が非常に多く、カルシウム、鉄分等の各種成分が含まれ、すばらしい野菜とされており、もつと作られて良いのではないかと言われて

おる。この種類は栽培自体は甘藍中最も作りやすく、他の野菜からみてもずつと手のかからぬものの一つであるが、ただ一七度以下の温度に三〇〜四〇日あわなければ葉は繁つても蕾が出ない。このことがあるので作り方によつては蕾が出ず失敗が多いように思われる。その他は甘藍と全く同様に扱えばよく、病氣も殆どなく、ただ野虫、夜盗虫の害が見られるからこの防除を行えばよい。この栄養豊富な野菜を食膳にのせ大いに食べていたきたいが、一方この美しい緑色の蕾は盛花等の材料にして面白いのではないかと考えている。イタリアン・グリーン、スプラウディング、カラプレス、ドシッコの三品種がある。

このように引張り出してみるとなかなか沢山ある。以上のものは主としていわゆる西洋野菜であるが、日本特有のものでも沢山ある。例えば百合は觀賞用が主体で、野菜としての任務が従になつていくくらいだし、(食用百合のごとき食用専門のものもあるが)糸瓜、扁蒲、冬瓜等は庭の觀賞を兼ねて以前より作られている……しかしこのようにないささか邪道な話はこれくらいにして、最後に一言……

ここに掲げた野菜は栄養価が高くしかも甚だ作り易いのだが、あまり作られておらない。それで筆者のごとき趣味にはこだわらなければならないが、保健野菜として大いに利用をお奨めしたい。

(北海道農業試験場技官)

## 會員便り

鹿児島県肝付郡甲良町白寒水

上山和樹

陽春の候ますます御隆昌のことと遠察申し上げます。すでに当方は桜も満開に近く、野には一面の花が盛りを過ぎようとしております。昨年一月雪たね同友会員となり「牧草と園芸」を愛読して以来一年余月を経ましたが、北海道の御誌が南の国の私の團場に期待とおりの実を結んでくれました。

自身がこの一年間に真に体験した事実であります。紫丸カブの予想以上の収量や、水田裏作のデントコーン等も、今年は構想を新たにやりなおしたいと思つております。またラデノクロバーも今秋は実作するつもりです。

夏の「大葉つるまめ」や「スーダングラス」が私どもの重要飼料作物である「テオシント」とともにどれほど役に立ちましたことでしょうか、今また「クリムソンクロバー」の赤い花が「べにばなつめくさ」の名前のおり鮮やかに畑をうめております。種子は北海道から、これは私

今後とも従来同様品質のよいしかも安い種子を提供下さいますようお願いいたします。また「テオシント」を十分検討下さいまして全国の酪農家の方々にこの秀れた作物を紹介下さいますように希望いたします。また寒暖各地における飼料作物輪作例、優秀な酪農家の経営状態などもお知らせ下さいますよう御願いたします。後略 (三〇、三、二七)

すぐに役立つ良書の発行予告

### 飼料作物栽培の手引

改訂版発行(五月二十日)

B六判 九〇余頁 附表豊富 定価送料共 九〇円

従来のものを更に改訂増補して内容を豊富に充実し、最新輸入牧草についても網羅して掲載し、その栽培と利用法について詳細、平易に実用的に説明、写真、図表なども判り易いものとなりました。御期待下さい。